

手縫針の輸出から続くグローバル展開のDNA 時流に合わせた大胆な業態変革で100年企業へ

左:RFIDブランドタグ 右:はがすと表面に文字が現れる「改ざん防止シール」



手縫針製造から印刷業への転換。

株式会社三宅（以下「三宅」）の前身は、1917年創業の三宅製針である。手縫針製造の大手専業メーカーとして日本の針輸出に貢献してきた。しかし、戦後にになって後進国の台頭や円高差損により、業界全体が大きな打撃を受ける。「製針事業の将来はない。思い切って事業転換しなければ」と考えた二代目の三宅来次郎氏は、輸出をあきらめ国内向けの新しい事業を模索していた。ちょうどその頃、値札用の虫ピンを納入していたある

大胆な業態変革のDNAは、三宅社長に脈々と受け継がれている。入社して間もなくのアメリカ研修で、初めて「バーコード」の存在を知った。「いずれ日本でも必ず普及する。これで印刷事業も大きく進化する」と確信し、他社に先駆けてバーコードの印刷技術を研究。POSシステム等の普及で急速にバーコードの

得意先から「ピンと一緒に値札も印刷して納めてくれないか」と言われた。これが印刷業へ転換するきっかけである。1972年、印刷機を購入し、経験がまったくない値札の製造を始めた。大学を卒業し入社したばかりだった現在の三宅正光社長も、慣れない印刷業務をすべて独学で修得していく。次第に流通業界の得意先が増えていき、値札製造を手がけてから10年かけて、縫針製造業から印刷業への業態転換を成し遂げた。

バーコードとの出会いがセキュリティタグに発展。

力にあると知り、3M社のシステムを勉強。1983年には住友スリーエムの広島地区代理店として万引防止システムの販売を開始した。大変な苦労を重ねた末によく売れ始めたが、この当時からの地道な情報収集が「セキュリティ」をキーワードにしたその後の関連商品開発に結びついていく。

グローバル展開で 拡がる夢。

100件以上に上る。独自製品による他社との差別化で、価格競争に巻き込まれないことが強みだ。

同社は現在、自社開発のバーコードプリンタ、セキュリティシステム、次世代の情報伝達手段の担い手であるデータキャリア（スーパー・タグ）など開発型の企業ならではの事業を推進している。

本社工場では、シール・ラベル印刷機25台と、世界に1台しかないダイカットタグの特注製造ラインが稼動する。売上比率は、印刷事業が6割に対してもセキュリティ事業が4割。次第にセキュリティ事業の比率が高まっている。

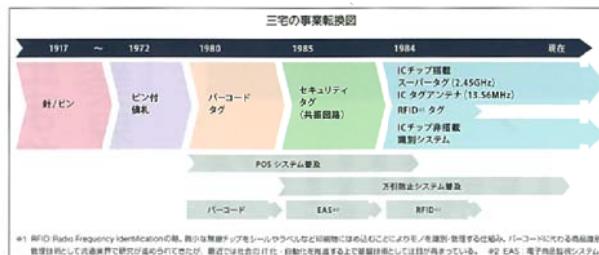
市場は年率2桁の成長が見込まれる。エッチング製法による商品の特長をより明確に打ち出しながら、世界市場でも3割のシェア獲得を目指している。海外企業との販売提携も推進するなど、将来的に巨大市場である中国やインドをなんだグローバル展開に力を注いでいる。

そのほかにも、自社開発した世界初の監視カメラ一体型の防犯ゲートや、一度貼ったシールをはがすと表面に証拠が現れる「改ざん防止シール」など、多くの製品を開発している。中でも、三宅社長は「セキュリティのための電波の技術と印刷の技術の両方を持つている中小企業は日本にない。その強みを活かせる時代が来た」と話す。今後、製品開発部門の人員を増やし、開発力をさらに強化していく考えだ。

成長産業であるセキュリティ関連市場で、次世代製品の開発アイデアは尽きるところを知らない。

によう。どうしたらできるのかを考え、繋ければ答は必ず見つかる」と社員たちを励まし続けた。特許出願はこれまで3割を超え

万引被害を防ぐための
防犯タグラベルの製造で、
三宅は国内で3割を超え



※1 RFID: Radio Frequency Identificationの略。最小無線半導体をシールやラベルなどに埋め込みておき、自動的に情報を読み取る仕組み。パーコードにせざる商品識別技術として流通業界で研究が進められてきたが、最近では社会的責任に伴う問題が再燃している。
※2 EAS: 電子商品監査システム



Corporate PROFILE

株式会社三宅

代表者： 代表取締役社長 三宅 正光

所在地： 広島県広島市佐伯区石内上1-16-1

設立年月日： 1917年6月創業

業務内容： シール・ラベル印刷、バーコードプリンタ販売、セキュリティシステム・タグの開発・製造・販売

WEBサイト： <http://www.miyake-inc.co.jp/>

代表取締役社長
三宅 正光